

【(5) 発問や指示・説明】

②「視覚的な手掛かりや具体例を挙げている」

【(8) 教材・教具】

①「教育機器を活用している」

《つまずきの背景》

A 刺激の影響の受けやすさ、B 言語理解の困難さ、C 記憶力の弱さ、D 文脈を理解することの困難さ、
H 刺激の選択の困難さ、K イメージすることの困難さ、N 注意の持続の困難さ、
O 見通しを持つことの困難さ、Q 状況理解の困難さ

《解説》

教育機器を使って写真や映像を拡大することで、子どもたちの注目を集めやすくなり、指示の内容を一斉に短時間で分かりやすく伝えることができます。また、口頭や板書での説明では伝えにくいものを映像等でイメージさせたり、比較させたりすることで子どもの理解を助けます。

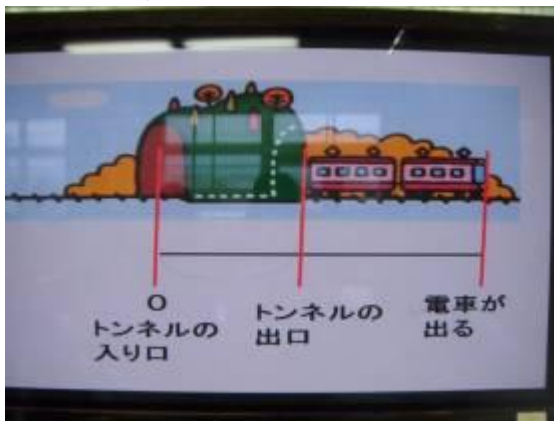
学級の中には、必要なことに注意を向けたり注意を持続したりするのが苦手な子どもがいる場合があります。授業の流れの中で必要なところに視覚的な手掛かりをワンポイントで示すと、子どもが集中しやすくなり効果的です。また、言葉だけでは意味が分からなかったり記憶に残りにくかったりする子どもがいる場合にも、視覚的な情報を活用することで、理解を助けることにつながります。

多用すると、かえって本来のねらいが分からなくなったり、子どもが飽きてしまったりすることがあります。また、映像は消えてなくなるので大事なところは文字等で残すようにするとねらいが分かりやすくなります。

【工夫点】

- ・算数の文章問題をイメージしやすくする。(小 工夫例 35)
- ・身近にある物、出来事を教材に生かす。(小中高 工夫例 36)
- ・手元の動きを拡大して提示する。(小中高)

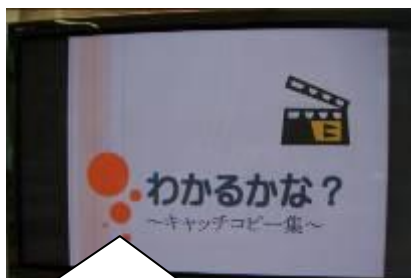
◆工夫例 35 「算数の文章問題をイメージしやすくする」



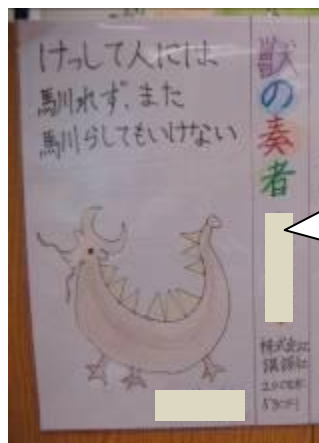
《算数（小学校3年生）》

文章を読んだだけでは内容をイメージしにくいとき、電子黒板に画像を取り込んで提示すると、理解の助けになります。

◆工夫例 36 「身近にある物、出来事を教材に生かす」



その時期にはやっているアニメやCMのキャッチコピーを大型テレビで映し、クイズ形式で示します。



《国語（中学校1年生）》

子ども自身がイメージでき、凝ったキャッチコピーを作ることができます。